

見通す力を育む理科学習

和歌山大学教職大学院・教育学部 富田晃彦
和歌山大学教育学部附属小学校 久保文人、力津隼拓
和歌山大学教育学部附属中学校 境原周太郎

研究の目的：

一年を通じて学校全体の研究会等の機会を利用し、見通す力を育む理科学習について議論する。また機会を見つけ、いろいろな課題研究を大学から提案する。

提案した課題研究の実践例：二至二分の機会を使った理科や総合的な学習の国際交流

春分、夏至、秋分、冬至の二至二分は、太陽の周りを公転する地球が作る一年のリズムであると同時に、その一年の巡りの中で私たちの周りの環境と生活の様子が変わっていき、重要な文化的行事が行われる時期にもなっている。四半期ごとのこの天文現象の時期に、その天文現象そのものを理解すると同時に、それぞれの国や地域での関連した文化的行事を紹介するオンライン国際交流会がある。これは国際天文学連合、部門 C：天文教育、アウトリーチ、天文遺産、委員会 C1：天文教育と発展、作業部会：天文教育研究と方法、その下の小作業部会：学校天文の日（Astronomy Day in Schools、富田とブラジルのパウロ・ブレトネス氏が共同代表）の活動として、ITAU, Iranian Teachers Astronomy Union（イラン学校教員天文連盟）及び SINA, Students' International Network for Astronomy（イラン天文生徒国際ネットワーク）のメンバーが世話人となって行っている。



Summer
SOLSTICE
FESTIVAL

Topics:

- Summer Solstice: the link between cultures
- Introduction to the ancient festival of Tirgan
- Introduction to summer solstice
- How do different countries celebrate Summer Solstice
- Teachers, the uniting points of countries and nations

Date: 21 June 2021 Time: 12:30 UTC
ITAU.info@yahoo.com www.skylian.org

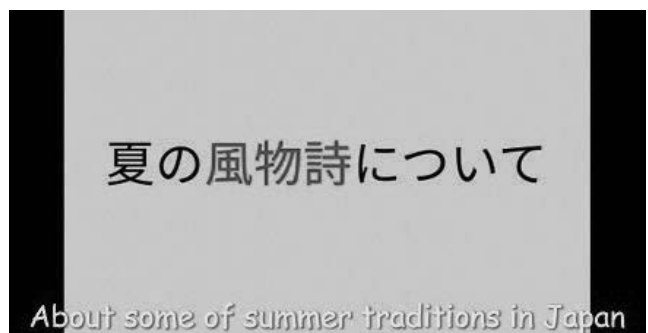
ITAU nase ITAU SINA

2021年6月21日（月）の日本時午後9時半から3時間、夏至にあわせた行事、Tirgan, the International Event for Summer Solstice（ティールガーン、そして夏至の日の世界の催し）がZoom越しに行われ、富田が世話人のひとりを務めた。イラン、ルーマニア、ブルガリア、イタリア、スペイン、カタール、ブラジル、マレーシア、日本の学校教員や生徒が、事前収録ビデオメッセージの紹介あるいはリアルタイムでの発表を通して、それぞれの地域での夏至のお祝いや行事を発表した。日本からは、岡山県井原市の井原市立出部（いずえ）小学校、井原市立美星（びせい）中学校（以上、美星天文台長の綾仁一哉氏の紹介）、そして和歌山大学教育学部附属小学校、附属中学校（以上、富田の紹介）が、事前収録のビデオメッセージで参加することができた。参加国からは、日本の学校の様子を興味深く知ることができたとの感想をいただいた。

「ティールガーン、そして夏至の日の世界の催し」の案内チラシ



附属中学校からは、この時期に行われる附中杯について、生徒が英語で紹介した。



附属小学校からは、この時期の風物詩について児童が紹介した。



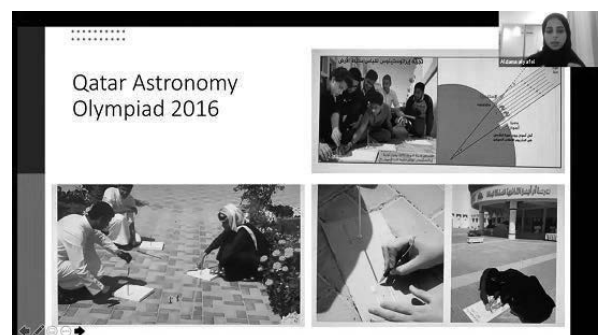
イランからは、伝統的な日時計（一年の日付がわかる建造物）となっている公園について、設計した著名な建築家から紹介があった。



ブルガリアからは、民族衣装とともに、夏至の時期の伝統的なお祭りや歌について紹介があった。



ブラジルは南半球を主に、赤道を挟んで広大な国土を持っている。国土の南の方となると、日本で夏至と言っている時は、寒い時期に当たる。ここでは、それでも暖かい地域でのブラジルの地域のお祭りの紹介があった。夏至だから地球全体が夏の時期の始まり、というわけではないことが、あらためてわかるお話であった。



カタールからは、高校生の天文コンテストの紹介があった。これは太陽の南中高度を実測して地球の半径を求めようとする課題演習のようすである。国が違って、その国の文化や言語が違って、地球の上で児童・生徒は、同じく人間の文化を勉強していることがわかるお話であった。